

平成30年4月5日の霧島山(新燃岳)噴火に伴う対応

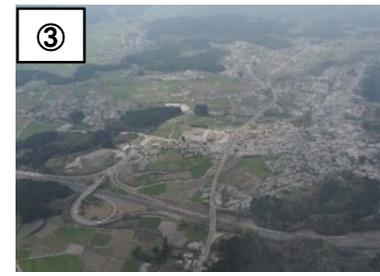
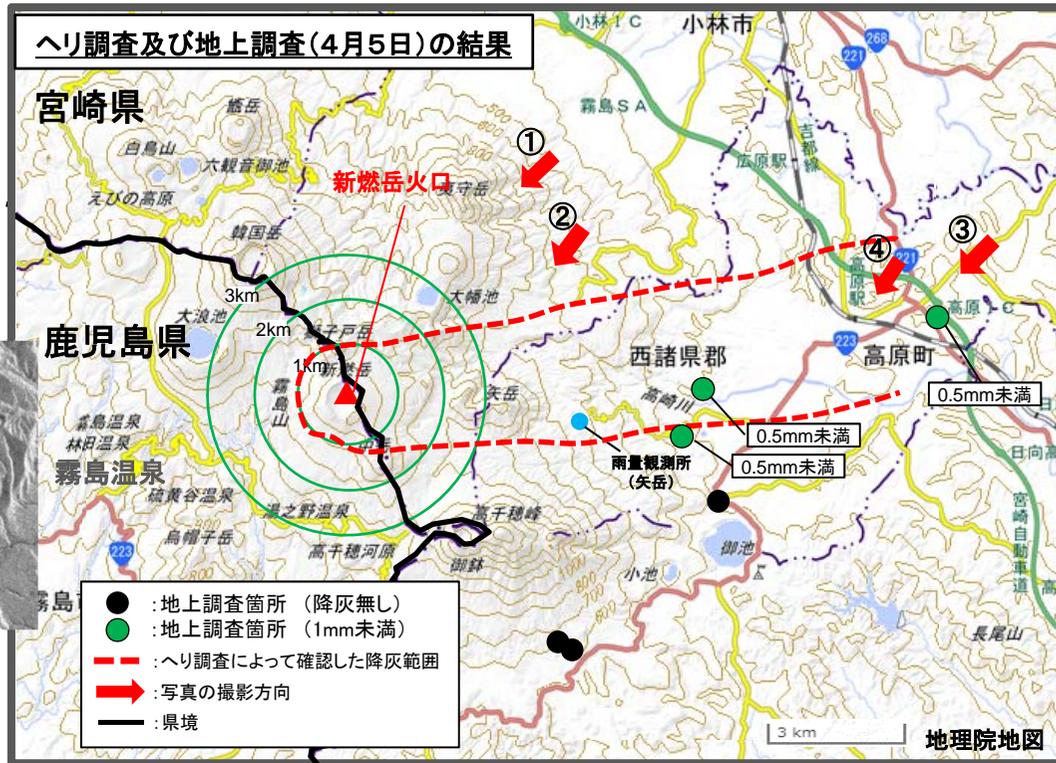
平成30年4月10日
九州地方整備局

- 霧島山(新燃岳)では、4月5日(木)に3月25日以来となる爆発的噴火が発生し、噴煙が一連の噴火で最高となる火口縁上約8000mまで上がったほか、火砕流が発生し、火口の中心から南東側へ約800m(火口縁から約400m)流下した。(噴火警戒レベルは3が継続)
- 九州地方整備局が4月5日に実施したヘリ調査及び同日地上調査では、新燃岳の東側で降灰が確認されたが、流域を広く覆う明瞭な火山灰の堆積は認められなかった。今後も火山の状況を注視しながら観測を継続。
- 4月6日に、新燃岳周辺の雨量観測所(矢岳観測所)で最大時間雨量12mm、累積雨量29mmの降水を観測した。現在のところ土石流の発生は確認されていない。



JAXAによるSAR画像(4月8日23:37頃)

- ・前回観測時(3月28日)に比べ、溶岩流が西側斜面をさらに流下している様子が確認できる
- ・東側斜面への溶岩流出は確認できない



高原小学校付近